



*Power Electronics for
Next **E** Stage*

サンケン電気
サンケングループ

2015 CSR報告書

Power Electronics for Next "E" Stage

編集方針

本報告書は、2014年度の当社グループのCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）活動をステークホルダー（利害関係者）の皆様にお伝えすることで、コミュニケーションの向上と活動内容の充実を目指す目的で作成しています。

報告対象期間

2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）

* 一部の報告には、2015年度の活動計画を含みます。

報告対象組織

本報告書の対象組織は、サンケン電気株式会社およびグループ会社としています。

ホームページでの開示

本報告書は、下記アドレスからもご覧いただけます。

<http://www.sanken-ele.co.jp/corp/csr.htm>

発行について

発 行 2015年6月

次回発行 2016年6月＜予定＞

参考にしたガイドライン

「環境報告ガイドライン」（2012年版） 環境省

「サステナビリティ レポーティング ガイドライン」（GRIガイドライン第4版）

お問い合わせ先

サンケン電気株式会社 管理本部 CSR室

〒352-8666 埼玉県新座市北野三丁目6番3号

TEL 048-472-1116 FAX 048-472-1158

サンケン電気

2015 CSR 報告書

C O N T E N T S

編集方針	1
------------	---

トップメッセージ	3
----------------	---

わたしたちの製品が使われているところ	5
--------------------------	---

半導体デバイス事業 / PM 事業 / PS 事業

特集 1 環境対応製品	6
-------------------	---

特集 2 当社技術を活かした「エコ・省エネ出前授業」を各地で実施	9
--	---

特集 3 当社およびグループ各拠点の地域貢献活動に積極的に参加	11
---------------------------------------	----

特集 4 LED「ペットボトル®」が地域活性化のために各地で活躍	13
--	----

■ コーポレート ガバナンス	15
----------------------	----

CSR の取り組み

CSR 体制

CSR 委員会、内部統制推進委員会、内部監査

情報セキュリティ、危機管理、輸出入管理、知的財産

■ 社会（ステークホルダー）	19
----------------------	----

お客様との関わり

株主・投資家との関わり

お取引先との関わり

従業員との関わり

社会・地域の皆さまとの関わり

■ 環境	25
------------	----

環境活動の考え方、環境活動体制

環境パフォーマンスと具体的な活動

GRI ガイドライン対照表	29
---------------------	----

会社概要	30
------------	----

時代の変化を見据え、社会との持続的な共生を

はじめに

当社は、1946年の創立以来、不断の研究開発を積み重ね、パワーエレクトロニクスとその周辺領域での最適なソリューションの提供に努め、お客様との価値観の共有を図ることで、この領域で確固たる地位を築いてまいりました。

コア事業である半導体デバイスでは、堅調な伸びを見せる自動車電装品向けICや今後大きな成長が期待されるモータコントロールIC、そして、産業機器や家電のみならず、様々な市場で求められる電力制御IC、パワーディスクリートなど、高付加価値を追求した先進的な製品を世界各地のお客様にお届けしています。このほか、永年培ってきた回路技術と制御技術を高度に融合させたパワーモジュール製品や創業以来一貫して技術革新に努めてきた電源機器（パワーシステム）製品など、特徴ある製品もお客様にお届けしています。

当社は、こうしたパワーエレクトロニクスに関わる多様なソリューションを提供し続ける企業でありたいと考えています。



サンケンのCSR経営

当社は「創立宣言」において、「産業・経済・文化の発展への寄与」を掲げており、その精神は「経営理念」において「半導体をコアビジネスに、パワーエレクトロニクスとその周辺領域を含めた最適なソリューションを提供することを使命とし、世界各地の産業・経済・文化の発展に寄与する」と明記され現在へ引き継がれています。

当社グループはこの「経営理念」の実践を通し、社会貢献することをCSR活動の軸として、「社会との関わり」、「厳正な企業経営」そして「地球環境の保全」といった観点からCSRの取り組みを行っています。

特に「地球環境の保全」においては、本業である「パワーの変換、制御に関連する製品開発」を促進することがより大きな貢献につながると考えております。

当社グループは、2015年度に3ヵ年の中期経営計画（15中計）をスタートさせました。従来の中期経営計画とは違い、10年先まで見据えた長期的視点でそこに生きる、サンケングループの「ありたい姿」と、そこに至るまでの直近3年間の「あるべき姿」をあらわしたものです。

中期経営計画の重点戦略市場としては「車載」「白物家電」「モータ」「産機・通信」「新エネルギー

目指して

ギー」「LED」の6市場を掲げています。これら6市場の製品群は、当社が得意とする「半導体を生み出すプロセス技術」、「IC・LED・センサーを組込むアッセンブリ技術」、「電源ユニットへ搭載する回路技術」、そして「大型電源を構築する装置化技術」のすべての要素技術が充分活かせる市場であり、エコ・省エネを実現するための多様な製品を通じて社会貢献してまいります。

今後の取り組み

今後も日本の省エネ規制、国際エネルギー省プログラム、欧州ErP指令、米国エネルギー省のDoE規制、米国EISA 2007改定等が製品の電源部分の効率に厳しくかかわってきます。さらに自動車に関しては世界各地でより厳格な燃費規制、排出ガス規制が適用されつつあります。

これらの課題を先取りし、社会が求めている高品質な「エコ・省エネ製品」を提供していくことで、ステークホルダーの皆様の期待に沿えるよう努めてまいります。

一方、最近ではとくに注視されている「厳正な企業経営」のためにコンプライアンスおよびリスク管理を徹底しガバナンス強化を図ってまいります。

変化の著しい21世紀に勝ち残り、そして企業に課せられた社会のニーズに対応するために、事業活



動とCSR活動を一体化させたCSR経営を着実に成果に結びつけ、全てのステークホルダーの皆様からこれまで以上のご信頼をいただき、また世界の産業・経済・文化の発展に貢献する価値ある企業と認めていただけるよう、邁進してまいります。

本CSR報告書をご一読いただき、当社のCSRに対するご理解を深めて頂ければ幸いです。

2015年6月

サンケン電気株式会社

代表取締役社長

和田 節

「わたしたちの製品が使われているところ」

当社製品は、成長著しいエコ・省エネ関連分野において、自動車、白物家電、LED 照明、産業機器などのさまざまな製品に使われています。更に、新エネルギー、グリーン・インフラ市場へ商品展開していくことで省エネに貢献しています。

法律に義務づけられた高層建造物に設置され、航空機の安全航行を確保

「高光度航空障害灯」



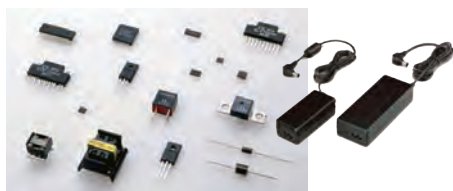
落雷や停電、予期せぬ電源トラブルから、ハードウェアやデータを守る

「無停電電源装置」



オフィス、FA、通信機器向け

「半導体デバイスやユニット電源」

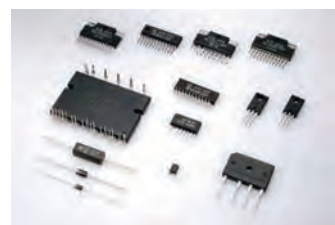


高度な情報・通信化社会を支える通信基地局用

「直流電源装置」

エアコン、洗濯機、冷蔵庫などの家電製品や太陽光発電向け

「半導体デバイス」

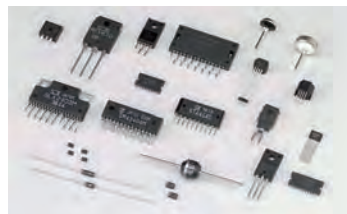


「LED 照明灯具」

省エネ、省資源、長寿命で次世代の照明として注目



自動車向けの様々な制御部分に搭載
「半導体デバイス」



自動車向け直噴インジェクタドライバー用ディスクリートモジュール

昨今のエコカーに対するCO₂削減要求として、ハイブリッド車ではない低燃費ガソリン車として小型化エンジンを用いた高出力化の動きがあります。これを実現するための手法として、従来のポート式エンジンから、直噴エンジンが主流になりつつあります。

『ポート式ガソリンエンジン』

空気と燃料を混ぜて気化した混合気をシリンダーの中に送り込み、圧縮させ燃焼させる。

『直噴式ガソリンエンジン』

シリンダーの中で圧縮された空気に直接燃料を噴射し燃焼させる。必要分の燃料で済むため燃費改善となる。

直噴式エンジンはインジェクタ制御が高圧化や多段式と複雑になり、従来のポート式よりも多くの半導体が使用されています。

今回、小型化・基板の省スペース化に貢献するため、新規にノンリードパッケージである HSON[※]の半導体を開発しました。

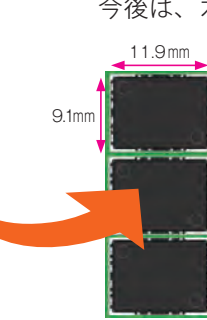
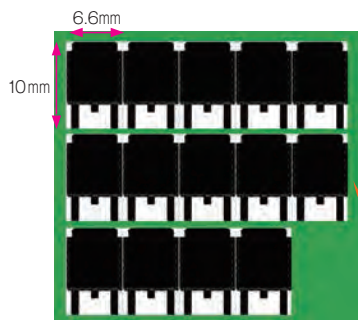
※ HSON：ヒートシンク付き SON
(Small Outline No Lead Package with Heat sink= 小型のノンリード面実装パッケージ)

例として4気筒型のガソリンエンジンで比較すると、実装面積は約 1/3 に縮小、基板面積は 1/2 となりお客様の

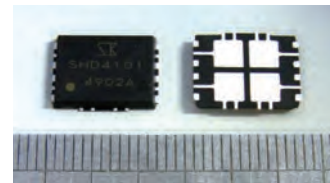
■ 4 気筒のインジェクタ回路比較

・従来

MOS-FET=8 個、ダイオード=6 個、
計 14 個の半導体部品を搭載



・HSON で実装
14 個の半導体部品を
3 個に集約



ユニット小型化に貢献しています。本製品自体が小型化になり、お客様の実装基板の省スペース化、部品点数の削減にもつながります。

製品出荷は 2016 年に 40 万個/月から、2020 年には 200 万個/月への拡大を見込んでいます。

今後は、本製品の性能アップおよび

HSON パッケージを利用して、ディーゼルエンジンなど他のユニット展開も考えています。

給湯器用 FAN モータードライバーで IC の電力損失を 1/3 に低減

キッチン、洗面所、浴室へ給湯するために必要なガス給湯器は、ガスの燃焼効率向上（完全燃焼）のために外から空気を強制吸気するシロッコ FAN が必要です。

この FAN に使われるモーター用ドライバーを大幅に小型化し、稼働時の電力損失も 66% 削減した製品を開発し

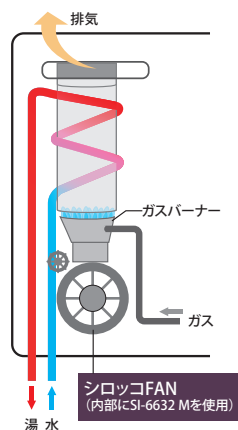
ました。従来は当社製の SMA6010 と他社製のコントローラを組み合わせた構成でお客様にご使用いただきましたが、新製品の SI-6632M は、これらを一体化して置き換えることができます。

部品の体積が 1/30 になったことで、使用材料のモールド樹脂、金属類、シ

リコン等の削減になり、給湯器メーカーであるお客様側でも基板の小型化につながります。

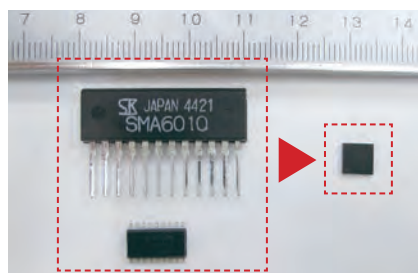
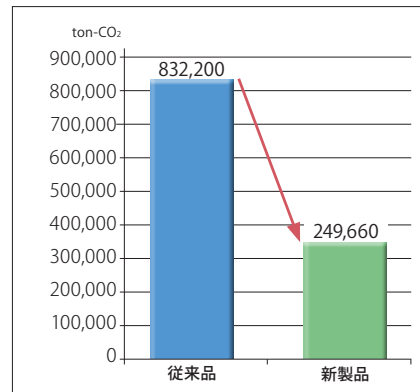
出荷数は、約 200 万個/年間を予定しており、電力損失削減、小型化による CO₂ 排出量は従来品の 1/3 以下になります。今後も、更なる低損失型製品の開発を検討中です。

給湯器の内部構造



従来品と開発品の消費電力比較

	従来品 SMA6010	開発品 SI-6632M
稼働時 消費電力	2.0 W	0.6 W
体積	31×10×4 1240mm ³	6×6×1 36mm ³

年間CO₂ 排出量比較 (2,000,000 個 / 年間)

※稼働時間 1 時間 / 日、CO₂ 換算係数 0.57kg-CO₂/kWh
2013 年度電気事業連合会 (全国平均) にて算出

白物家電用電源部分の小型化、高効率化、省資源に寄与する IC を新規開発

冷蔵庫、エアコンに代表される白物家電の省エネは中国等の新興国にも広がっています。例えば冷蔵庫は内部容積を広げるため、またはデザイン性を追求するために、電源部分には省スペース化、低コスト化、省エネ性能の向上の要求があります。

従来、冷蔵庫などの電源部分は、ACトランス、ダイオード、レギュレータ等で構成されています。回路が簡単でノイズが少ないなどの長所はありますが、ACトランスが非常に重い、トランスの変換効率、ダイオード損失、レギュレ

ータ損失などの効率が悪く発熱が大きいという短所があります。

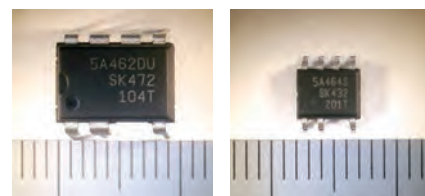
今回開発品のICは非絶縁チョップパ方式採用により小型、高効率を実現しました。

- ・体積 1/5、重量 1/5 程度に小型化
- ・従来品の電源と比較し、効率が約 40%改善
- ・軽負荷時から定格時まで大幅に効率改善

本製品の体積・重量が、1/5 になったことで使用材料のモールド樹脂、金属類、シリコン等の削減になり、冷蔵庫メーカーであるお客様側でも基板の小型化にもつながります。

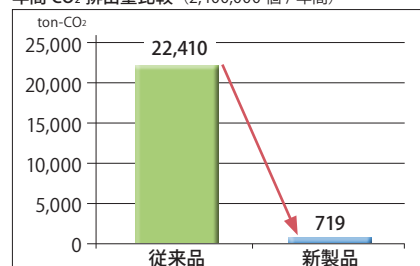
外形形状は、「DIP-8」、「SOIC-8」の2種類を準備し、出荷数は約240万個/年間を予定しており、これにより大幅なCO₂削減効果があります。

今後は、高級扇風機などに使われるDC ブラシレスモーターの電源部分の検討、また容量増大を考えています。



実装用「DIP-8」

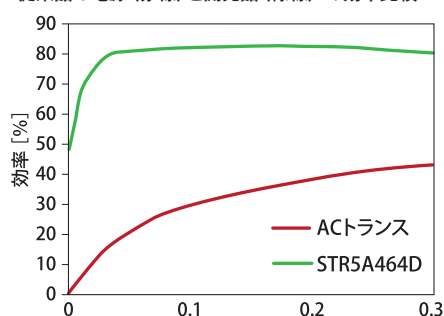
ハンリード表面実装用「SOIC-8」

年間 CO₂ 排出量比較 (2,400,000 個 / 年間)

※稼働時間 1 時間 / 日、CO₂ 換算係数 0.57kg-CO₂/kWh
2013 年度電気事業連合会 (全国平均) にて算出

損失比較	従来品	開発品 STR5A464D
軽負荷時	1.87W	0.06W
定格負荷時	4.30W	0.65W

従来品の電源 (赤線) と開発品 (緑線) の効率比較



単相 3 線 10kw 蓄電システム 屋内設置専用タイプで小型化

大規模災害時に必要不可欠な非常用電源を確保するため、学校などの公共施設の防災拠点に太陽光発電と蓄電池をセットで導入する自治体が増えてきています。

防災拠点用非常用電源として最適なシステムである本装置 (EMUA103SS3-LS-D2) は、単相 3 線式の商用電源系統へ連系し、15kWh のリチウムイオンバッテリーを標準内蔵した屋内設置専用型蓄電システムです。

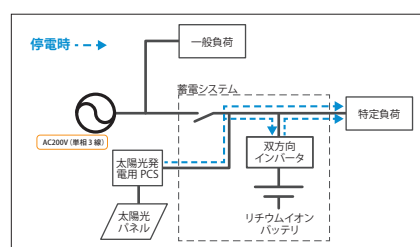
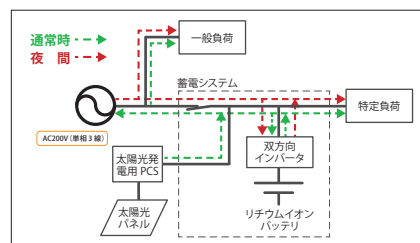
商用電源系統正常時には連系運転をしながらバッテリーの充放電により設備に電力を供給し、真夏に電力不足が問題になる時のピークシフト等の電力制御も可能です。系統停電時には、自立運転をすることで特定負荷へ電力を供給することができ、また蓄電池盤を追加することでバッテリー容量を 20kWh、

30kWh に増設することもできます。

当社製の太陽光発電用パワーコンディショナーと組み合わせることにより、商用電源系統停電時も太陽光発電電力による特定負荷への電力供給や、リチウムイオンバッテリーへの充電が可能です。また、災害時等に商用電源が停電している状態からもバッテリー電力により自立運転を開始することができるブラックアウトスタート機能も搭載しています。

当社では 2 年前から屋外用を販売し、その後に屋内用を開発しました。今回は屋内用をさらに小型化し、設置面積・体積ともに従来比 30% 減を実現しています。

今後は、現場の設置業者からの構造的な改善要望をフィードバックするなど、さらに使いやすいシステムを追求していきます。

屋内設置線用型
単相 3 線 10kW 蓄電システム

MFP(複合機用電源)の待機時電力大幅削減

コピー、プリンタ、ファックスの機能を兼ね備えた「複合機」の電源部分には、厳しい省エネ規格が課せられています。複合機の待機時消費電力は、ヨーロッパの省エネ規格である「ErP 指令 Lot.6」により 0.5W 以下に対応しなければなりません。

開発品の中速機MFP用では、従来品の待機時消費電力 0.5W に対して

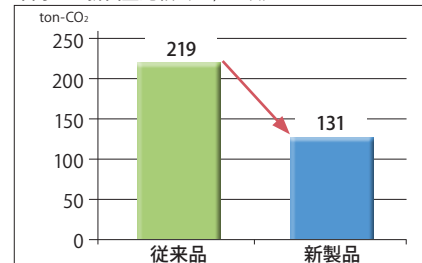
0.3W を達成することができました。

今後もOA機器の省エネ規格は年々厳しくなると想定されますが、当社は先行対応していくように考えています。

従来品と開発品の消費電力比較

	従来品	開発品 1H645H
待機時消費電力	0.5W	0.3W
使用材料部品点数	ほぼ変わらず	

年間 CO₂ 排出量比較 (117,000 台)



※稼働時間 1 時間 / 日、CO₂ 換算係数 0.57kg-CO₂/kWh
2013 年度電気事業連合会 (全国平均) にて算出

LED 防犯灯 水銀灯 80W クラスに匹敵する明るさ+配光を 20W で実現。更に省エネに貢献

近年、照明の LED 化が著しく、防犯灯にも同様の動きがみられます。当社 LED 防犯灯の最新モデル NVS20010 SA5SN は、防犯灯のレンズの光学設計を広範囲に明るく照らすように改善し、消費電力は従来品と同じまま、防犯照度基準クラス B+* を実現しました。

* (公社) 日本防犯設備協会の定める、4m 先の歩行者の見え方を基準とした「防犯照明の推奨照度」の区分

これにより、灯具設置間隔が 24m から 36m になり、100 メートルの道路を

明るく照らすのに今までは 4 本の防犯灯が必要であったところ、3 本で済むようになりました。

今後は、当社製の自然エネルギーを

	開発品 NVS20008 シリーズ	開発品 NVS20010 シリーズ
ルーメン	1,700 lm	
消費電力	20W	
防犯照度基準 クラス B+	24 m	32 m
灯具設置間隔		
寿命	60,000 時間	

利用した電源の防災用照明システム「ハイブリッド LED 街路灯」向けに DC (直流 12 ~ 24V) 入力タイプもラインアップしていきたいと考えています。



軽量化し施工性に特化した屋内天井用の高効率 LED ベースライト

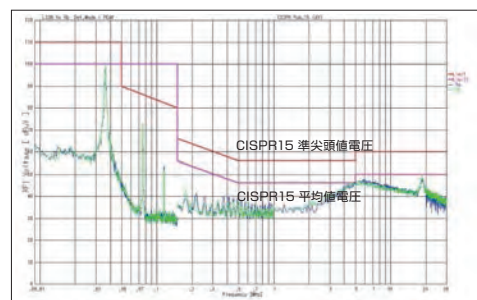
蛍光灯タイプの LED 灯具に代わる施工性の良い、装置一体型の LED ベースライトを開発しました。当社の LED ベースライトは、フラットレイアウトにより業界トップクラスの薄さ 38mm と軽さ 900g を実現しました。これにより片手での取り扱いが容易となり、さらにカバー部をスライド機構にすることで、従来の作業時間 2 分に対し 55

秒と大幅に施工性の改善を図りました。施工業者からは「作業がやりやすい」という好評価をいただいています。

発光部は、光の拡散技術により 38mm という薄さでありながらムラのない均一な発光で、高効率 LED を採用することで、154lm/W という高い変換効率を実現しました。電源部は、当社製 IC と電源回路設計技術により、

92.4% (AC200V) という高効率を達成しています。

「雑音端子電圧」と呼ばれるノイズ規格の対応に関しては、超低ノイズ型 LED 照明灯具として電気用品安全法技術基準省令第 1 項より、更に広範囲の規格である CISPR15 規格をクリアしておりデータセンター等にも安心して使用できます。



サンケングループ拠点各地で次世代育成

当社の技術および当社製品のLEDを活用した「エコ・省エネ出前授業」を各地で開催しています。

各部署、各関係会社から若手社員、女性社員を「CSR推進者」として選出・任命し、交替で社内外にて出前授業を展開しています。

子どもたちや保護者、学校関係者から「エコ・省エネについてよく理解ができた」と感謝の言葉をいただいています。

石川県輪島市 LED 子供教室

石川サンケン
サンケンオプトプロダクツ

石川県

開催日：2014年10月18日（土）

場 所：輪島市 ふれあい健康センター

内 容：座学「ノーベル物理学賞の青色LEDとは」
工作「あぜのきらめきのペットボトルを作ろう」

石川県志賀町 高浜小学校 夏休み子供教室

サンケンオプトプロダクツ

石川県

開催日：2014年8月1日（土）

場 所：志賀町立高浜小学校体育館

内 容：座学「エコと省エネ・地球温暖化・LEDについて」、「蛍について」
工作「ペットボトルの工作」「モニュメント飾り付け」

東京都北区 環境展 出張授業

サンケン電気

東京都

開催日：2014年10月18日（土）

場 所：北区立赤羽小学校

内 容：座学「地球温暖化問題」「LEDについて」
工作「ペットボトルの工作」「モニュメント飾り付け」

東京都北区

清水小学校 LED 環境教室

開催日：2014年6月18日（土）

場 所：北区立清水小学校

内 容：座学「地球温暖化問題」
「LEDについて」
工作「ペットボトルの工作」
「モニュメント飾り付け」



福島県二本松市 夏休み子供教室

福島サンケン

福島県

開催日：2014年7月26日（土）

場 所：二本松市 市民交流センター

内 容：座学「LEDとは？」

工作「LED 行燈の製作」

はんだ付け作業にも挑戦し、二本松市伝統の「上川崎和紙」と「サンケン LED」を組み合わせた行燈は大変満足のいく出来栄えだったようです。



埼玉県川越市 資源化センター（つばさ館）工作教室

埼玉県

サンケン電気

開催日：2014年12月13日（土）

場 所：川越市 資源化センター（つばさ館）

内 容：環境教室と LED 体験工作（光るクリスマスツリー）



サンケン電気

東京都

埼玉県新座市 東北小学校4年生 エコ調査

埼玉県

サンケン電気

開催日：2014年6月23日（月）、24日（火）、27日（金）

場 所：サンケン電気 本社

内 容：4年生が3日間にわたって来社

座学

「サンケン電気のエコ・省エネの取り組み」

「エコで省エネな LED 照明」

「電気を大事に使おう」

「サンケンの IC は待機電力を少なくして省エネ」

社内見学

「CAD 室（コンピューターで回路を設計している）」

「居室の省エネ」、「文房具のリサイクル」

「廃棄物の 26 種類分別」

工作

「LED を使った工作」



地元行政主催イベントに積極的に参画し、地域活性化に協力

サンケングループは首都圏以外に石川県、山形県、茨城県、福島県に複数の重要拠点を持っています。地元地域の活性化は、当社の人材確保をはじめ、様々なインフラの強化にもつながります。

技術および当社製品の LED を活用し、地元行政主催のイベントを盛り上げることは、企業の社会的責任と認識し、積極的に参画をしています。

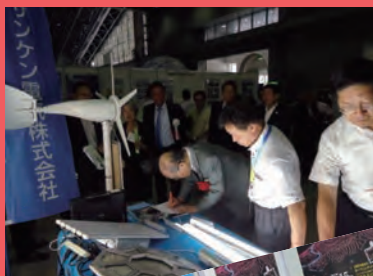


いしかわ環境フェア 2014

3回目参画

石川県

開催日：2014年8月23日（土）、24日（日）
場 所：石川県産業展示館 4号館



昨年同様に、展示ブース脇で実施した子ども向け工作は盛況でした。8月23日には、石川県谷本知事が、当社ブースへお立ち寄りになられました。県知事はLED ペットボトルの中に入れるメッセージフィルムにサインされ、そのサインは10月の輪島白米千枚田の「あぜのきらめき」にて展示されました。



出展構成

【共通】

- ① LED 照明
- ② CSR パネル展示
- ③ LED ペットボトル工作教室

【いしかわ環境フェアのみ】

- ④ 小型無停電電源装置 UPS (SXU-Z シリーズ)
- ⑤ ハイブリッド LED 街路灯モデル

かみすフェスタ

初参加!

茨城県

開催日：2014年10月18日（土）、19日（日）
場 所：神栖市文化センター



かみすフェスタは、市民と企業や団体の触れ合いの場として、鹿島サンケンのある茨城県神栖市で毎年開催されている大きなイベントです。暗室にて輝く LED ペットボトルと共に記念撮影も行い、写真をお持ち帰りいただきました。

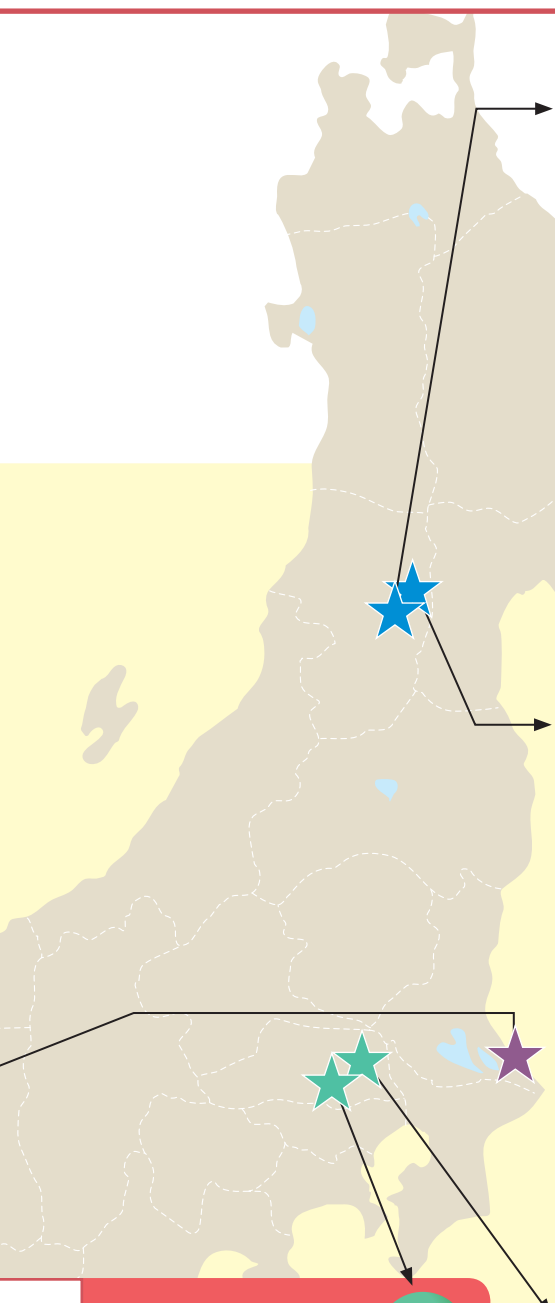
エコプロダクツ川越

開催日：2014年7月19日（土）
場 所：川越市資源化センター（つばさ館）

今年の工作教室は容器となる「空ペットボトル」は「つばさ館」から無償提供いただき、中身は「あぜのきらめき」等で使用している「ペットボトル」の旧バージョン材料を使用するなどエコに努めました。219名の参加があり、昨年の127名に比べ大幅に増加しました。

2年連続で最優秀賞をいただき、川越市長から表彰状をいただきました。





青少年のための科学の祭典 in 山形

初参加!

山形県

開催日：2014 年 8 月 9 日 (土)

場 所：山形市霞城セントラル



初めて参画したイベントで、LED ペットボトル材料を多数準備しました。当社ブースは 3 階にありましたが、30 分もするとあっという間に会場内に人だかりができていました。終了時間まで行列が途切れることなく、体験人数は 258 名と今までに開催したイベントでの過去最多人数となる大盛況でした。

東根市大森だんじろうの環境実験室

2回目参画

山形県

開催日：2014 年 11 月 16 日 (日)

場 所：東根市さくらばタントクルセンター 1F



昨年が好評だったことで環境部会から“今年も是非出展をお願いしたい”という要請もあり、今回の出展に至りました。今回の LED ペットボトル工作には、ペットボトル切断作業を取り入れたので小さい子どもには難易度が高い部分もありましたが、積極的に「やりたい!」という声が多く、子ども達のチャレンジ精神に感心させられました。

2回目参画

埼玉県
川越市



SAITAMA 環境フェア&こどもエコフェスティバル

初参加!

埼玉県

開催日：2014 年 1 月 29 日 (水)

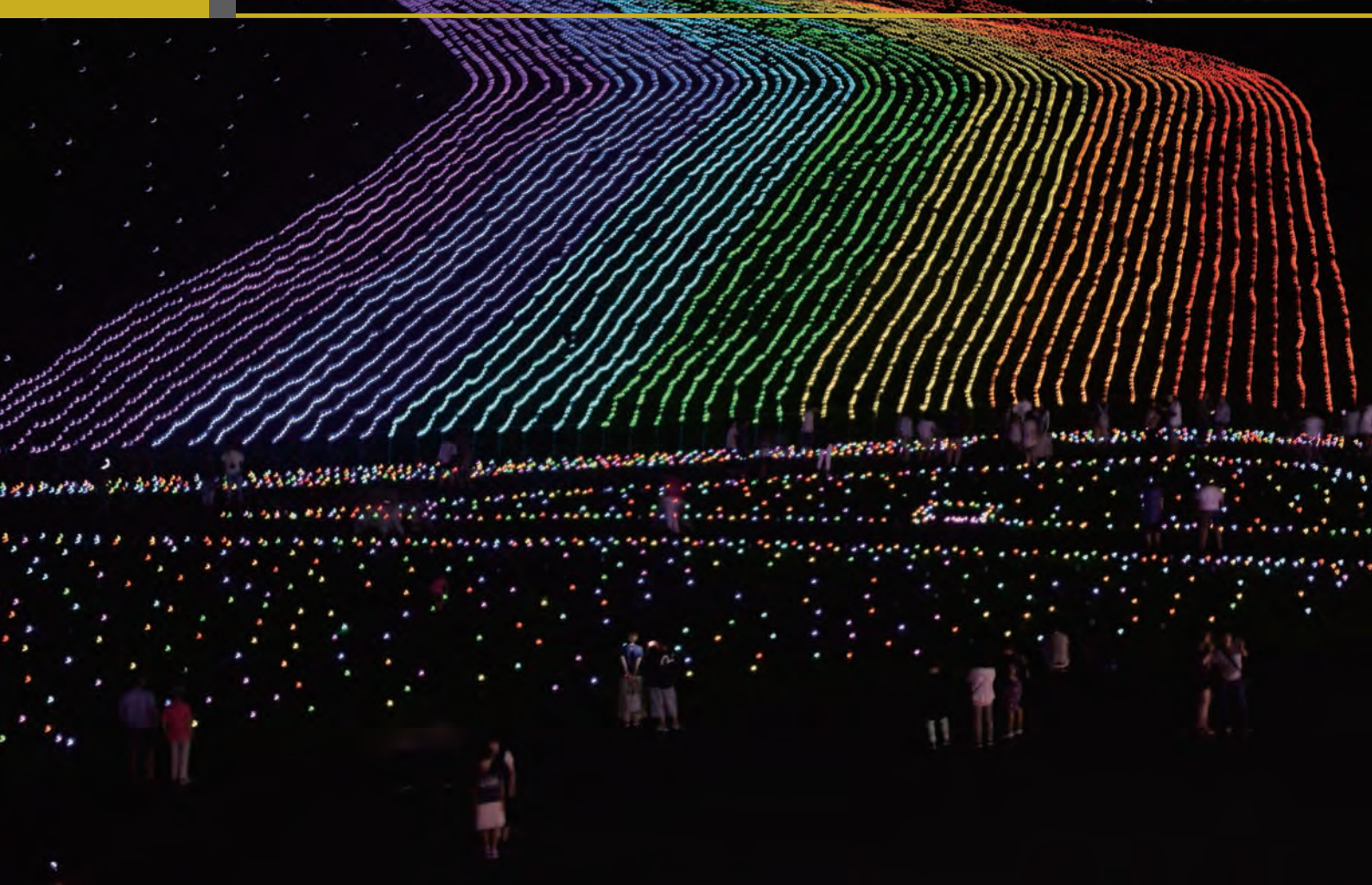
場 所：コルソホール (CORSO 7 階)



埼玉県からの依頼で初めての参画だったため、当社を知っていただく目的で LED 照明製品や活動パネル類を多数展示しました。

工作教室は、短時間の実施ながら 70 名の子ども達が来てくれました。

当社は、地元行政からのご要望には可能な限り協力していく体制で、準備をするともに日々新しいことを企画し地域活性化の種を育てています。



富山牛岳温泉スキー場「虹のかけはし」

★開催期間 2014年7月22日～9月7日

★LED ペットボトル：28,000 個（7色）

冬はゲレンデとなる斜面で、水平に張った鎖に吊り下げる方法でペットボトルを設置し、七色の虹を演出しました。



LED「ペットボトル®」とは？

当社は地域活性化のために「ペットボトル®」と呼ばれる太陽光発電パネル付LED（発光ダイオード）を使用し、各地行政に技術供与をしています。

「ペットボトル®」の仕組みは容器に「太陽光パネル」、「充電電池」と「LED」を組み込んだもので、昼の太陽エネルギーで発電・蓄電し、暗くなるとLEDが自動的に点灯するというシンプルな発光装置です。

化石燃料による発電ではなく、太陽光エネルギーを利用するものなので地球環境に優しく経済的と大変評判をいただいています。



ライトアップされた本社の庭

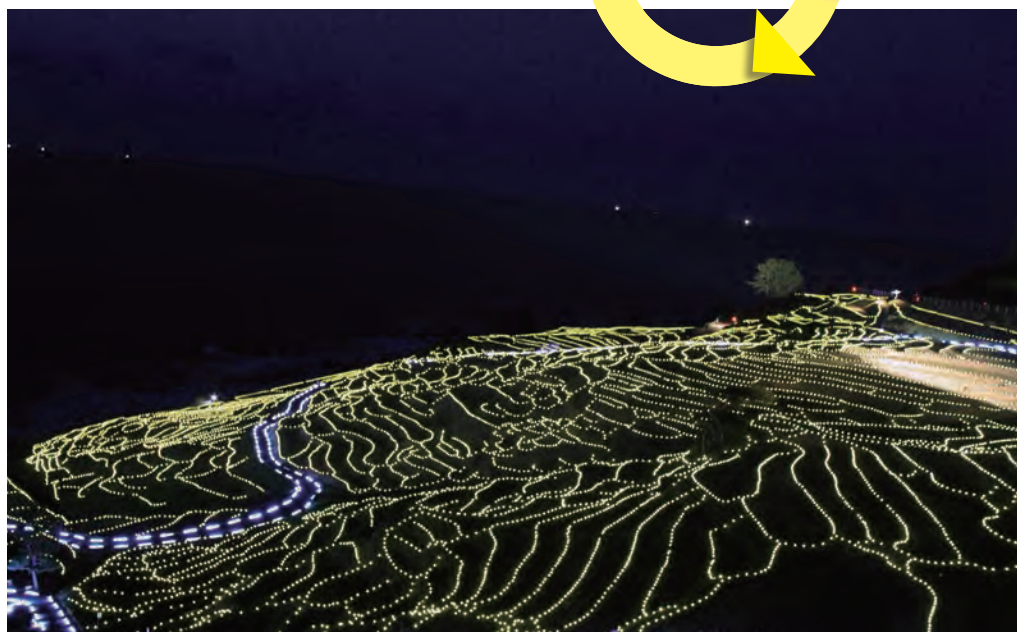
2014年11月、サンケン電気本社においても社員がCSR活動の理解を深める一環としてペットボトルを設置しました。また、社員に綺麗なイルミネーションを鑑賞してもらうことで、少しでも癒し効果が生まれ、社内連帯感向上につながれば良いと考えました。予想外の効果として、来社されるお客様、取引先の方々にも大変好評でした。

石川県「輪島・白米千枚田あぜのきらめき」

★開催期間 2014 年 10 月 18 日～2015 年 3 月 15 日
(今年度は 2015 年 10 月 10 日～スタート)

★LED ペットボトル：21,000 個

日本海を望む棚田とあぜ道を幻想的に照らす光が、ピンクと黄色に 30 分ごとに美しく変化します。



サンケングループは地域社会の良きパートナーを目指し、そのほかの地域でも地域との共生を図っています。

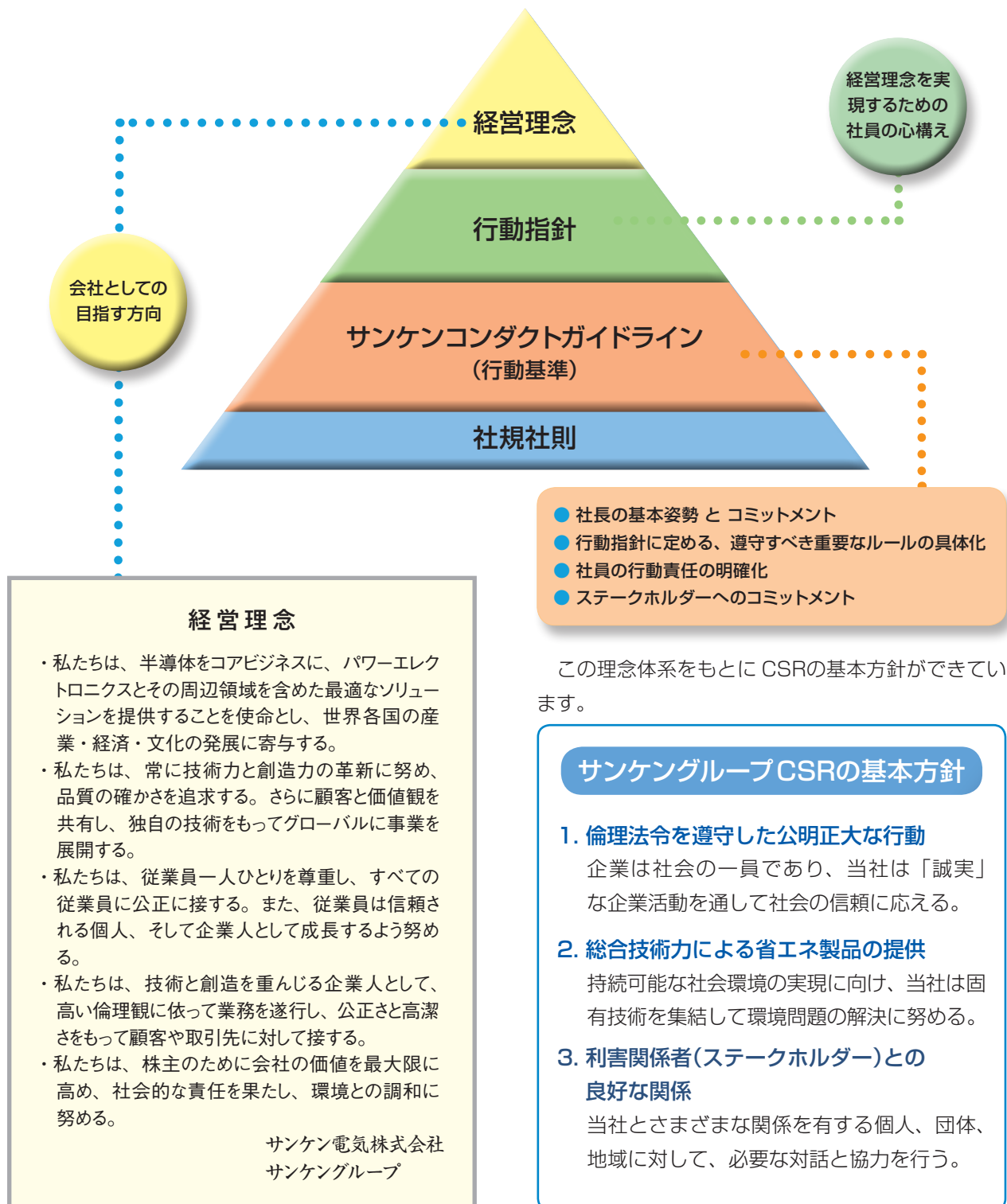
- 千葉県鴨川市大山千枚田「棚田の夜祭り」
- 福島県二本松市あだたら高原スキー場「あだたらのかがやき」



経営理念の実践を通して、CSRの実現を目指します。

サンケングループのCSR

サンケングループの理念体系は、経営理念、行動指針、コンダクトガイドライン（行動基準）の3つで構成されています。



誠実で存在感のある会社を目指し、
管理体制の充実を図っています。

当社は企業価値の向上と社会的責任（CSR）を果たすため、経営目標の設定ならびにその執行を適正に行う仕組み（コーポレートガバナンス）の充実を図っています。

コーポレート ガバナンス体制

当社は会社の運営に必要な機関として、「取締役会」「監査役会」「会計監査人」を設置しています。

また、執行役員制度の導入による経営と執行の分離、内部監査および内部統制評価によるコーポレートガバナンス体制の整備を進め、経営の透明性の向上に努めています。

会社の機関とその状況

・取締役会

経営上の意思決定機関で、経営戦略や経営目標などを決定します。

事業年度の経営責任の明確化を図るため、任期は1年で取締役就任しています。

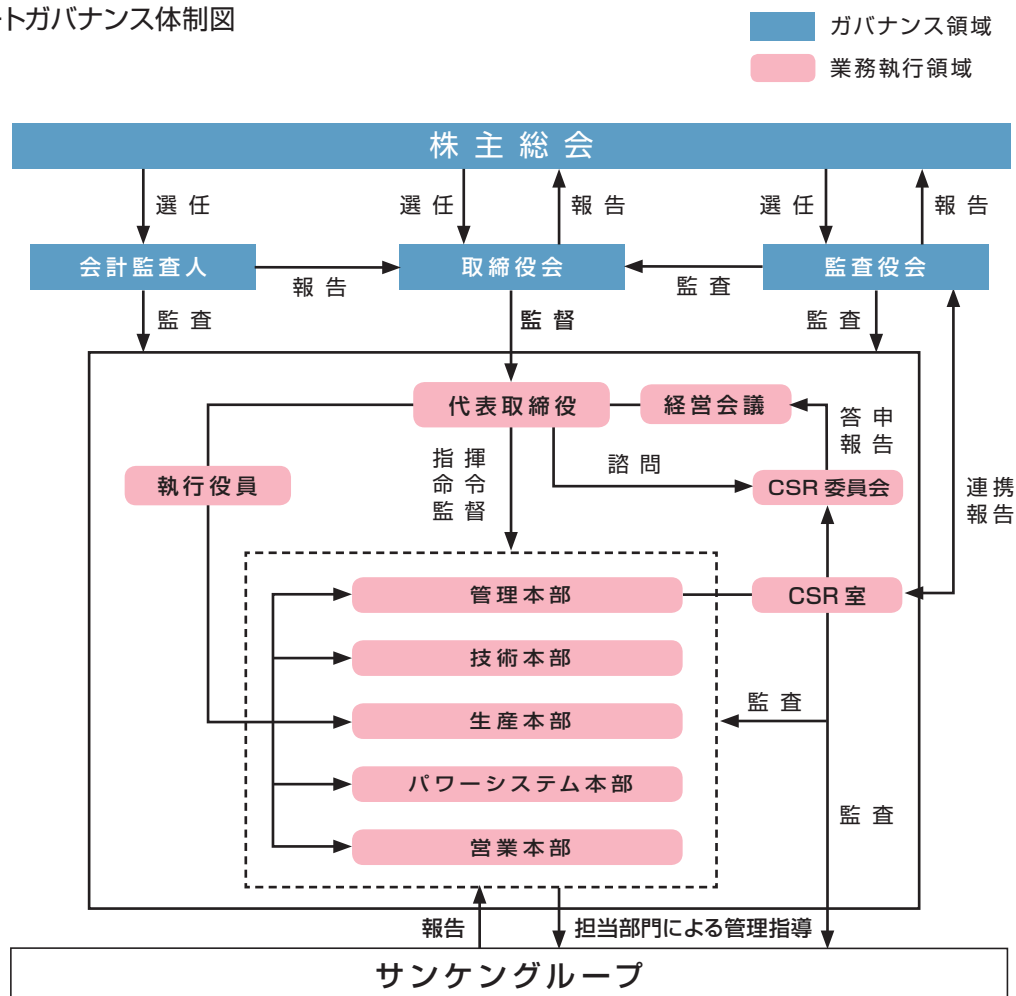
・監査役会

取締役の業務執行状況やその他の業務管理体制を監視する職務を負い、社外監査役も就任しています。

・会計監査人

当社は、新日本有限責任監査法人による外部監査を受けています。

コーポレートガバナンス体制図



さまざまな委員会や専門組織が、CSRの推進を図っています。

当社は責任ある企業活動の推進によって企業価値の持続的な向上を図ります。

CSRの組織全体への浸透と実践に向け、「CSR委員会」が組織横断的な専門組織としてCSR活動の推進を行っています。

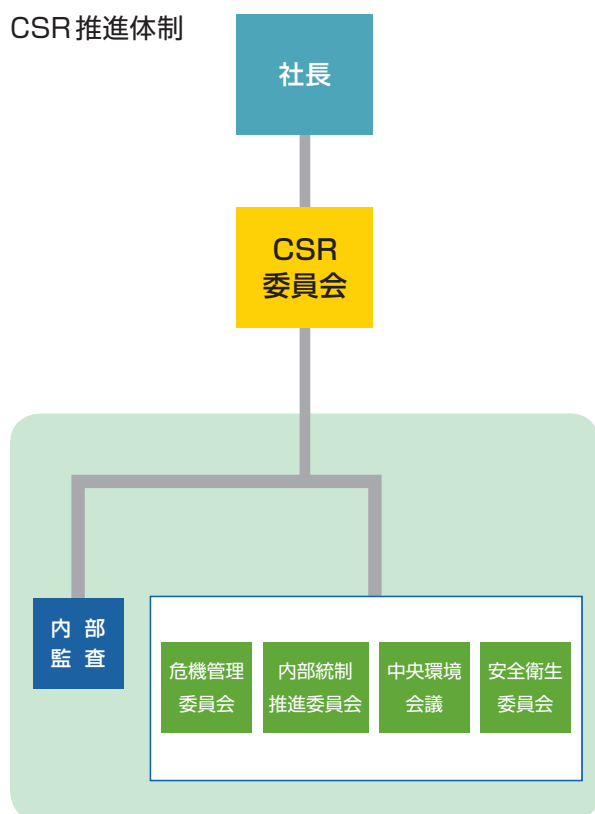
CSR委員会

（基本方針）

1. 経営理念、経営計画への適合
2. 経済・法令・倫理的なリスクコントロール
3. 活動結果の開示と多様な関係者との対話

CSR委員会は、各本部長が委員として任に当たり、グループ全体のCSR活動を統括しています。

CSR推進体制

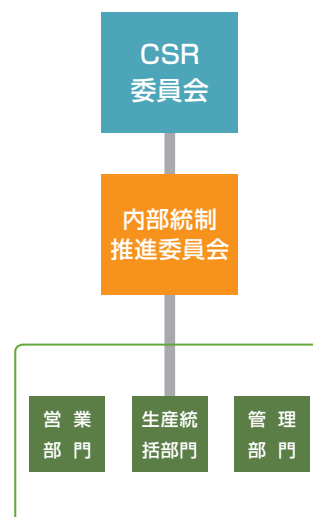


内部統制推進委員会

内部統制推進委員会は、管理本部長を推進委員長とし、内部統制の整備状況及び運用状況の確認、その際に発見された不備の是正を迅速に図り、内部統制を推進しています。

2014年度の内部統制活動としては、1. 実質的なリスクに対応した内部評価 2. 海外拠点への積極的アプローチの継続 3. 基幹システム変更対応等を推進してきました。

内部統制推進委員会による評価結果は、「内部統制報告書」に記載され、代表取締役提出されます。2014年度においても、新日本有限責任監査法人による「適正意見」が表明され、当社の内部統制の有効性が確認されました。



内部監査

当社は、「コンダクトガイドライン」（行動基準）による倫理法令遵守を目的とした「内部監査」を実施しています。内部監査の結果は、経営層ならびに監査役に報告され、必要に応じて当社グループを含む業務に反映されています。

また、全社員に対して、e-ラーニングによるコンプライアンス教育、身近な事例に基づくコンプライアンスマガジンの発行など、コンプライアンスの推進に注力してきました。

2014年度は、前年度に続きリスクアプローチに基づく重要性、影響度を評価したテーマを重点的に監査しました。また、コンピュータ利用監査技法（CAAT）の活用を広げ、経営者のニーズに合った内部監査の付加価値の実現（改善提案）を図り、経営者のリスク管理支援を推進してきました。

リスク管理を強化して、 事業の継続性を確保しています。

事業活動には、その目的の達成を阻害するさまざまな事態が発生します。当社ではこのようなリスクを低減するため、計画的に社内体制の整備を進めています。

情報セキュリティ

当社では、取引先との契約条件、技術情報、製造条件等の企業秘密・情報資産の保護管理を強化するため、「情報管理規程」を制定し、情報漏洩防止の徹底を図っています。また、個人情報保護法や不正競争防止法に則り、保護すべき情報の範囲やその管理方法を定めた手順書も整備しています。

情報セキュリティ教育は、定期的に各部門で実施されています。教育や情報管理手順などの実施状況についてはCSR室の監査もなされており、その結果をもとに部門の情報管理体制の強化が図られています。

外部と接続する通信ネットワークに関しては、不正侵入の防止対策強化を図るとともに、通信記録の保護と監視、ネットワーク使用に当たってのガイドライン策定といった対策を講じており、実効性を確保しています。

危機管理

当社グループでは、地震や火災などを重大なリスクと捉えており、災害発生時の被害最小化と復旧手順を定めた「災害対策マニュアル」・「事業継続計画（BCP）」を策定するとともに、非常時における従業員の安否確認システムを導入しています。定期的な訓練などを通じてこれらを効果的に運用し、重大災害への対応力をさらに高める活動に継続的に取り組んでいます。

また、海外拠点の人的安全管理に関しては、「国際危機対策マニュアル」を策定し、その運用を通じて非常時対応の迅速化を図っています。

これら危機管理体制の維持・強化を図るため、グループ全体を統括する「危機管理委員会」を定期的に開催しています。そこで、災害対策マニュアル等の実効性をさらに向上させるための見直しや、災害対応の

実績情報を共有することで、グループ全体の災害対応力のさらなる強化を図るなどの施策に取り組んでいます。

輸出入管理

輸出入管理を適切に実施するために、当社では、取引対象となる商品、部品、設備、原材料などの貨物およびその関連技術を、社内規則に定められた手順に従い、輸出入規制に該当するかどうかをあらかじめ判定する事で、業務を適正に推進しています。輸入においては、当社の貨物のセキュリティ管理と法令遵守体制の整備状況が評価され、特例輸入者として監督官庁である東京税関よりAEOの認定を受けました。

また、輸出入業務に関連する部門を網羅した「輸出入管理委員会」では、適法性向上を図ることを目的に本業務に係る教育および監査を定期的実施しています。

2014年は、改定航空貨物保安制度（国土交通省）の特定荷主の認定を受け、航空貨物輸送におけるセキュリティの向上に努めています。

知的財産

競争の激化するグローバル市場においてメーカーとしての優位性を維持するためには、市場ニーズを捉えた研究開発によって競争力のある製品を他社に先駆けて創出することと、開発成果を知財権で適切に保護することが重要となります。このため、当社では、研究開発の初期段階から技術開発部門と知的財産部とが密接に連携し、事業活動と一体化した知財活動を展開し、牽制効果の高い知財権の効率的な取得・活用をワールドワイドに行っています。

また、効率的な事業活動を安定して継続できるよう、他社知的財産権の調査を徹底し、知財リスクの回避と防止にも努めています。

このような観点から、当社では、従業員に対する体系的な知財教育活動を通じた知財マインドの醸成、発明創作環境の向上にも力を注いでおり、グローバル市場を勝ち抜く知財立社を目指しています。

お客様へ最適なトータルソリューションの提供

当社グループは、お客様の声を開発・製造部門までフィードバックすることで高品質・高性能な製品の提供を行い、お客様信頼度の向上に努めています。

ライティングフェア 2015 へ出展

3月3日～6日に開催された「ライティングフェア 2015」に出展を行いました。技術説明員として当社社員がお客様対応をさせていただきました。

4日間で3,000名以上のお客様が、当社ブースにご来場されました。

会場内でのアンケートの結果からは、LED単品をはじめ、グッドデザイン賞受賞ベースライト、植物育成用LEDランプ、高天井用施設灯に興味をもたれたお客様が多く見られました。



さらなる製品向上に向けて

お客様へ安全・安心な製品・サービスをお届けするため、品質マネジメントシステム（ISO9001、ISO/TS16949）を運用し、品質管理体制を構築、継続的改善に努め、成果を上げています。自動車、医療機器など安全安心を求められる製品には、通常よりも更に高い品質・信頼性が求められています。サンケン電気と各グループ会社においては安全性、品質、信頼性保証に関する活動を最重要課題として取り組まなければなりません。



本社生産本部の品質保証統括部に「車載品質統括室」を設け、車載品質の確立は当然のこととし、各グループ会社を横通した品質管理の統一化の促進、工場立ち上げ支援強化を図っていきます。

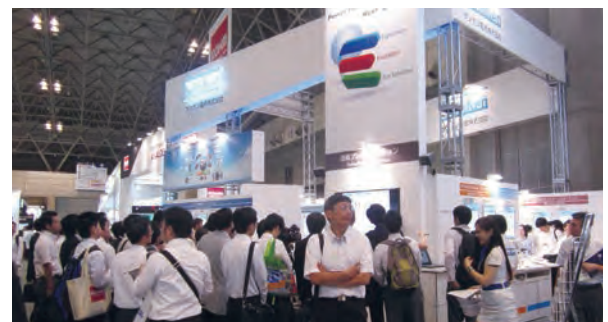
テクノフロンティア 2015 へ出展

5月20日～22日に幕張メッセで開催された「テクノフロンティア 2015」に出展を行いました。

今回は、サンケン電気のパワーソリューション（テーマ展示）、技術プレゼンテーション、デジタルコントロール、次世代パワーデバイス、パワーマネジメント、モーターコントロール、カーエレクトロニクス、LEDライティング、パワーモジュール、エネルギーマネジメントシステムの10のソリューション（ゾーン）を設けお客様に情報提供をさせていただきました。

技術開発の社員が説明員を行ったため、新技術・新製品に対するお客様含めた来場者の反応は、開発品へ迅速にフィードバックを行います。

当社ブースには、3日間で昨年を超える約2,400名のお客様がご来場されました。2016年度も更に効果的にお客様にわかりやすいプロモーションを行っていく予定です。



タイムリーな情報開示を重視したIR活動を推進します。

当社は、積極的なIR活動を推進し、株主や投資家の皆様を始め、様々な関係者（ステークホルダー）に正確で公正な情報をタイムリーに開示し、良好なコミュニケーションを維持できるよう努めています。

利益配分について

当社は、継続的に安定した利益をあげ、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、経営資源の有効活用と経営の効率化による継続的かつ安定的な配当に努めています。

お取引先との関わり

公正・透明・誠実なお取引を通じて共存共栄を図っていきます。

当社は、グローバルな調達活動において国内外の多くのお取引先の人権や労働に関する基本的な権利を尊重するとともに、常に公平で透明な取引が誠実に行われるように取り組んでいます。

購入に対する姿勢

当社は、購入に関しての基本方針、取引原則および倫理原則を「行動管理基準」に定め、誠実で透明な取引環境の向上に努めています。

なお、調達業務の運用状況については、監査部門による定期的な確認が行われています。

【調達基本方針】

1. 法令を遵守し、環境にも十分配慮します。
2. グローバルな観点で最適調達を目指し、お取引先との相互理解と信頼関係に基づくパートナーシップを構築します。
3. お取引先へオープンで公平な参入機会を提供し、国籍・企業規模・取引実績の有無を問わず、QCDE 満足を基本に選定を行います。

1. コストの
合理化強化

2. 調達SCM
の改善

3. CSR調達
の推進

お取引先選定について

当社では公明正大な選定を行い、「調達基本方針」に基づき広く世界に目を向け、平等な取引の機会を

IR 活動について

当社では、株主・証券アナリストおよび機関投資家の皆様に当社の財務状況や事業戦略を適切にご理解頂くために、定期的に決算説明会を開催しています。また、同時に個人投資家の皆様には、定期的に会社説明会を開催、当社ホームページにて決算短信・有価証券報告書・適時開示情報、および外国人投資家向けのアニュアルレポート（英文）などを掲載し、公平・公正な情報の開示に努めています。

提供しながら自由競争の原則に則ってパートナーシップの構築ができるお取引先を選定しています。

事業説明会の開催

緊密で長期的なビジネスの発展を図る目的から、当社ではお取引先事業説明会を開催しています。



2015年度は97社（193名）のお取引先を対象に実施し、当社の新しい中期経営計画の基本方針、「車載」「白物家電」「モータ」「産機・通信」「新エネルギー」「LED」の6つの重点戦略市場、BCP(Business Continuity Plan)



対応、「グリーン調達」と「CSR 調達」などが説明されました。

また、当社の基幹システム変更に伴う、EDI 発注システム (Web EDI) における変更点にも触れました。今後も適切な情報の提供に心掛け、相互信頼に基づくパートナーシップの充実に努めます。

なお、パワーモジュールの生産拠点であるサンケンインドネシアにおいても現地取引先事業説明会を開催しています。

労働環境の質的充実に向け、 さまざまな取り組みを行っています。

当社は、「従業員一人ひとりを尊重し、すべての従業員に公正に接する」ことを経営理念に掲げています。この考えを基本として、当社は従業員の能力開発に必要な機会、安全で働きやすい職場環境の整備に注力しています。

仕事と生活との両立に向けた取り組み

当社は働く従業員の仕事と家庭の調和（ワークライフバランス）を重視しており、労働環境の整備と支援体制の充実を進めています。

埼玉県「ウーマノミクスプロジェクト」から、「多様な働き方実践企業（ゴールド）」の認定をいただいています。女性がいいきと働き続けられる環境をつくり、従業員の仕事と子育て等を両立できる環境づくりを行っています。

また、女性社員はもちろんのこと、男性社員の育児休暇取得促進や子育て参加に関する啓蒙活動も積極的に行っており、「くるみんマーク」も取得しております。

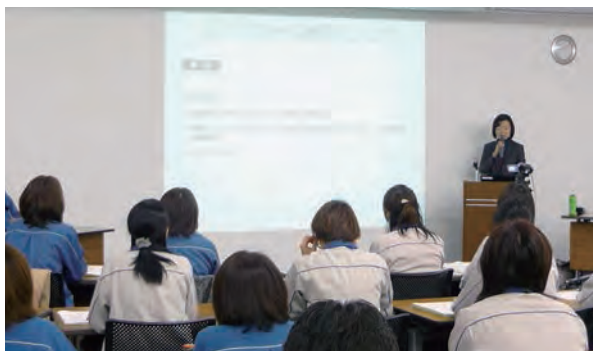


多様な働き方実践企業
(ゴールド)



「くるみんマーク」

	2010	2011	2012	2013	2014
産児休業者数	5	4	10	2	11
育児休業者数	9	11	11	9	8
介護休業者数	0	0	1	0	1



【女性社員インタビュー】

生産本部 プロセス技術統括部
プロセス技術部プローブ技術グループ
真尾 麻美（サナオ アサミ）さん
入社：2006年4月

女性が働きやすい職場です



私は就職してから、技術者として半導体のウェーハ検査の精度向上に力を注いできました。その中で、2012年12月に第1子を出産しました。1年3カ月間育児休業を取得できたので、子供の成長を側で見守りながら有意義な育児を行う事ができました。

復帰の際は、技術者として元の職場に戻り、仕事もスムーズに再開しています。上司や同僚の理解もあり、現在は勤務時間短縮制度を利用し、子供の通院や介護にはサポート休暇も活用しています。

会社の支援制度のおかげで、子育てを行いながらも、夫と協力し仕事と家庭のバランスを保つことができ感謝しています。

これからも家族との時間を大切にしながら、業務に取り組んでいきたいと思っています。

グループ全体における女性の活躍の推進

当社および国内グループ会社において、中長期的な女性の活躍を推進するため、2012年度から約60名（1～3期生）を選抜し、3カ年のポジティブアクションを実施しています。これにはメンバーの上司も参加し、女性が活躍するための環境整備も含めて取り組んでいます。

今年度は取り組みの一環として、論理思考力や対人思考力を鍛えるため、一期生に対し、外部講師による『ロジカルシンキング』の研修を実施しました。

多様化する雇用への取り組み

ダイバーシティ推進の一環で障がいをお持ちの方の雇用活動を継続的に行うため、所轄のハローワークと連携を密にして、幅広く多様な人材の確保へ取り組んでいます。

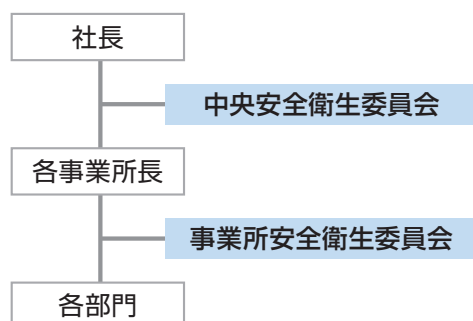
一方、新卒採用においては、積極的に外国人を採用する等、当社のビジネスがグローバル化する中でそれに対応しています。

また、学生向けインターンシップにおいても、埼玉県の企画である海外インターンシップ事業に協力し、北米の関連会社へ学生2名を派遣しました。

※期末時点	2011	2012	2013	2014	2015
新卒採用数 (内外国人)	0	13 5	0	16 1	16 6
中途採用数	3	12	12	10	—
障害者雇用数	21	29	29	32.5	—
インターン数	30	26	18	18	—

職場の安全と安心への取り組み

事業所の安全衛生委員会を毎月開催し、職場の安全と安心への取り組みを推進しています。また全社的な取り組みとして、中央安全衛生委員会を四半期毎に開催し、各事業所との連携を図りながら様々な活動を展開しています。



【2014年度の主な取り組み】

- ① フォークリフトの事故防止並びに安全管理を遂行するため、「フォークリフト管理マニュアル」を制定し、運用を開始しました。
- ② 水質汚濁防止法の改正に伴う地下水汚染の未然防

止のための実効ある取り組みとして、化学薬品を取り扱う分解室の移設を実施し、対処しました。

- ③ 教育の一環として、専門業者による「薬品取扱講習会および高圧ガス保安講習会」を内容をより充実させ開催し、前年度より多くの社員が受講しました。
- ④ 自転車およびバイク通勤者を対象とした「交通安全講習会」をより多くの社員が受講できるよう就業時間内に開催し、通勤途上災害の改善に努めました。

従業員のための家族見学会

12月13日、「Enjoy！福島サンケン体験ツアー」と銘打って、福島サンケンでは初めて、従業員の家族を対象とした「工場見学」を実施しました。参加者を楽しんでもらえるよう、入念に打合せをし、「子ども目線」での準備を重ねました。

14組48名の方が参加し、エアシャワー体験やLEDペットボトルづくり、軽食バイキング…などで楽しんでもらいました。様々な感想が寄せられ、初めてにしては成功であったと関係者一同喜んでいました。



工場内見学



ペットボトルイルミネーション設置



集合写真

【参加者の感想】

- ・お父さんの仕事を知ることができて良かった
- ・ペットボトルづくりが楽しく、LEDに興味を持てた
- ・エアシャワー体験がおもしろかった
- ・バイキングが豪華で美味しかった
- ・また来年の見学会も参加したいです！

地域密着のさまざまな活動を行い、 企業市民としての社会貢献を行っています。

行政、NPO、NGO など多様なステークホルダーと対話し、地域社会の良き隣人を目指し、よりよい生活環境を共に作り、地域との共生を図ります。

障がい者支援活動へ注力

当社グループでは、地元地域の「障がい者支援」という社会貢献活動を行っています。

近隣の障がい者施設の方にご来社いただき、訪問販売という形式で多数の社員とコミュニケーションを取っています。また、障がい者施設に簡単な軽作業の依頼することもあります。いずれの場合も、障がい者の方に過度なストレスが加わらないように細心の配慮をしています。

施設長、ご担当者からも、「みんな楽しみにしており、サンケン社員の方と触れ合うことで明るくなる。」と喜ばれています。

1 サンケン電気本社で昼休みクッキー販売

サンケン電気本社の近隣にある障がい者施設「社会福祉法人にいざ 福祉工房さわらび」さんでは、保存料や着色料を使わない手作りの安心安全でおいしいクッキーを生産しています。

昨年に引き続き、3月に来社いただいて昼休みに販売し、開始直後から大盛況で社員からも好評でした。障がい者の方も、社員と活発なコミュニケーションを取り充実した様子でした。

サンケン電気川越工場でも同様に、障がい者施設の支援としてクッキーなどの訪問販売を受け入れていく予定です。



2 鹿島サンケンで障がい者施設 訪問販売



鹿島サンケンでは、地元の神栖市矢田部にある知的障がい者通所施設「ハミングハウス」さんで生産しているクッキーなどの訪問販売をお願いしています。昨年度から数え既に6回ほど実施し、継続的に売上げ貢献することができています。

特に、第6回はクリスマスイヴの開催だったため、クリスマスバージョンの商品を用意していただき、社員にも大変喜ばれました。

訪問販売実施スケジュール	
第1回	2013/9/11
第2回	2013/12/24
第3回	2014/3/20
第4回	2014/6/24
第5回	2014/9/25
第6回	2014/12/24



東京電機大学 見学受け入れ(川越工場)

技術本部 PS 事業部では、昨年に引き続き3月に東京電機大学の学生と引率教授の工場見学を受け入れました。

「研究開発だけでは製品はできないこと」を理解していただくという目的のもと、製造作業に関する説明、太陽光発電用パワーコンディショナーのライン紹介、無停電電源装置などの電源検査ライン紹介、開発部門の実験室内覧を興味深そうに見学していました。

説明した社員も学生からの熱心な質問に対し真剣・丁寧に回答し、引率教授からご満足いただけたようでした。



いざというときに備えて

福島サンケン、山形サンケンは、東日本大震災で被災した工場でもあります。被災の経験を風化させることなく、地域貢献の意味も込め当社グループ会社では当社製「ハイブリッドLED 街路灯」を構内に複数本設置しました。

この「ハイブリッドLED 街路灯」は、風力と太陽光で発電した電力をバッテリーに蓄電できるLED照明です。自然エネルギーを利用し電灯線接続が不要なため、電気料金が0(ゼロ)円、長寿命(60,000時間)でメンテナンス費用も大幅に削減します。蓄電した電力は必要な時に使用することができるので、長期の停電時にも非常時に必要な電力を供給することが可能です。



石川サンケンとサンケンオプトプロダクツ 2基



山形サンケン 2基



福島サンケン 5基



本社 1基

低炭素社会の実現に向けて

当社は、かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくために、事業活動と環境活動の融合を図り、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指し、「エコと省エネ」を経営戦略に掲げた活動を推進しています。

環境の取組

関係会社を含めた企業グループ全体で環境保全活動を推進することにより、一層大きな改善効果が期待できることから、2000年にグループ全体の環境ビジョンとして、「SG環境憲章」を制定し、企業活動のあらゆる面で誠意と創意を持って、環境に優しく行動することを約束し、具体的な行動計画として「SG環境行動計画」を定め、実行しています。

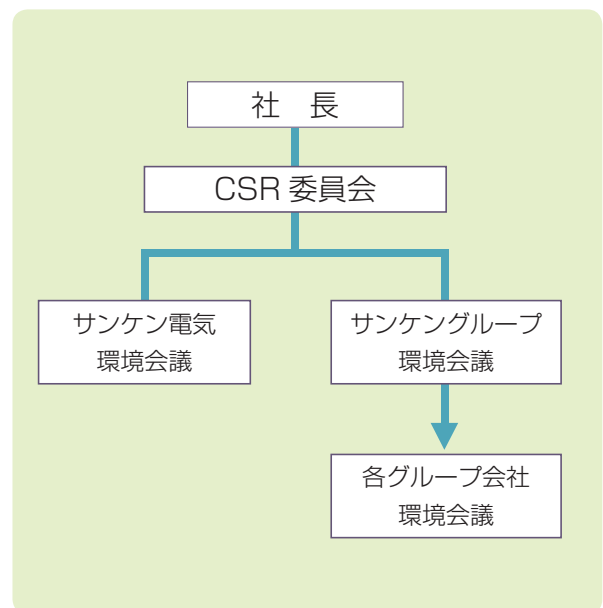
更にグループ各社ごとに「環境方針」を定め、事業特性と地域の特色を踏まえ、環境負荷の継続的な低減の取り組みを推進しています。



※ SG：サンケングループ

環境マネジメントシステム推進体制

効率的かつ的確に環境経営を推進するため、代表取締役の直属組織である CSR 委員会を母体として、グループを横断する環境管理体制を構築しています。



当社は、国内 13 事業所、海外 8 事業所の製造拠点において環境マネジメントシステムを構築しており、それらは、ISO14001 の認証を取得しています。

事業の特性に応じた環境に配慮した製品開発、廃棄物や、資源エネルギーの削減などを通じて環境保全に取り組んでいます。

環境監査と定期審査

当社は、環境活動向上のため、毎年、自社による環境内部監査を行い、関連法規制への適合性、年間計画の進捗状況などを点検し、更に、第三者機関による審査を毎年行い、当社の環境管理システムの有効性を確認しています。

検出された課題などは直ちに是正措置をとり、フォローアップ監査により効果を確認しています。

化学物質管理定着活動

当社では、法令遵守、地球環境の保全、事故の防止、労働安全や健康確保、製品安全のために、「化学薬品管理マニュアル」を策定し、化学物質の適正な管理の定着に努めております。

また、化学物質によるリスク低減を図るために、定期的に使用・貯蔵場所のパトロールを行ったり、



分解室をより作業環境の整った場所に移設するなど、事故の未然防止に努めています。

法規制の遵守

当社は、コンプライアンスを徹底するため、環境に関する法規制を捉え、定期的に法規制遵守状況を確認しています。

更に、確実な法規制遵守のために、排出ガス、排水、騒音・振動等について、拠点ごとに法律や条例の規制値より厳しい自主管理値を設定しています。

2014 年度も行政機関等から指導、勧告等、及び近隣からの環境に関する苦情はありませんでした。

化学物質の管理

「化学物質把握管理促進法」(PRTR 法)に基づいて、事業所単位で年間取扱量が 1 トン以上の第 1 種指定化学物質と 0.5 トン以上の特定第 1 種指定化学物質を、国に報告しています。

改正水質汚濁防止法への対応

12 年 6 月に改正された水質汚濁防止法に対応するために、山形サンケンでは有害物質貯蔵指定施設から漏洩防止対策など実施し、2014 年 5 月に工事が完了しました。

また、同様に漏洩対策が必要な本社と福島サンケンも 2015 年 2 月までに対策工事を行い、法律で定められた実施期限までに対応工事を全て完了しました。



省エネ委員会活動

当社は、温暖化ガスである CO2 排出量削減の重要性を認識し、省エネ対策に取り組んできました。

本社と川越工場に在席しているエネルギー管理士を中心に、各部門の代表者から構成される省エネ委員会では、各部署で改善を進めている課題の解決や他部署と共有できる対策の水平展開を図ると共に、年 1 回のパトロールで運用状況の確認と改善ポイントの抽出を行っています。

環境リスク対応

1. PCB（ポリ塩化ビフェニール）の管理

トランス、コンデンサー等に使用されていた PCB は保管場所を決め集積・管理し、行政へ管理状況を報告しています。

2. 省エネ法・地球温暖化対策推進法への対応

「省エネ法」ならびに「温対法」に基づき、エネルギー管理統括者等の選任、ならびに実績報告対象の全事業所が中長期計画書および定期報告書を監督官庁に提出しました。

今後とも、法令に基づきエネルギーの消費節減および有効活用に努めてまいります。

環境活動の状況は適宜に評価・測定され、翌年の計画に反映されます。

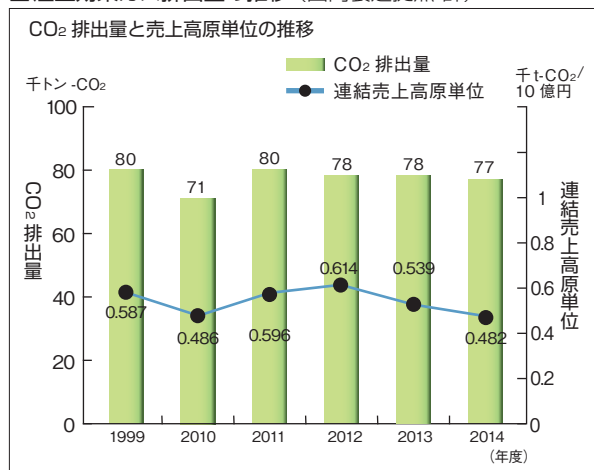
省エネ対策と温室効果ガス

地球温暖化防止に取り組むため、各事業所の有効な活動を取り入れながら、CO₂ 排出量の効率的削減に努めましたが、2014 年度は、CO₂ 排出量を前年度比 0.6% 削減するも、削減目標荷は届きませんでした。

今年度はエネルギーロス削減を図り、削減目標達成を目指します。

2014 年度	目標 (%)	実績 (%)	2015 年 目標 (%)
CO ₂ 削減量	13年比 -1	-0.6	14年比 -1

■ 温室効果ガス排出量の推移 (国内製造拠点 計)



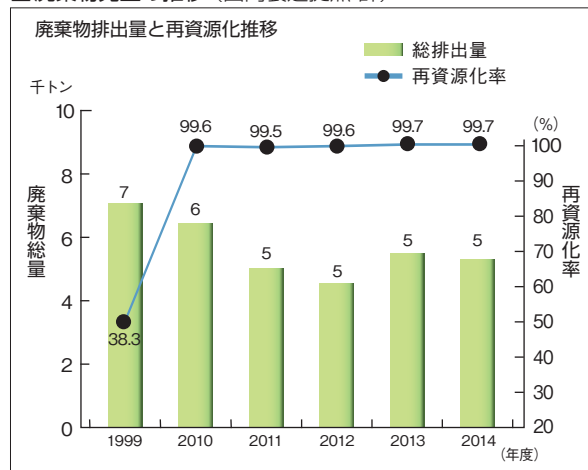
廃棄物の削減と資源循環

資源の有効利用・枯渇防止の一環として、ごみの発生抑制、排出量の削減、再資源化の推進を継続的に展開した結果、国内 10 拠点で再資源化率 99%以上を維持しました。

1 拠点は再資源化率が 98%に留まり、更なる活動の強化を図ります。

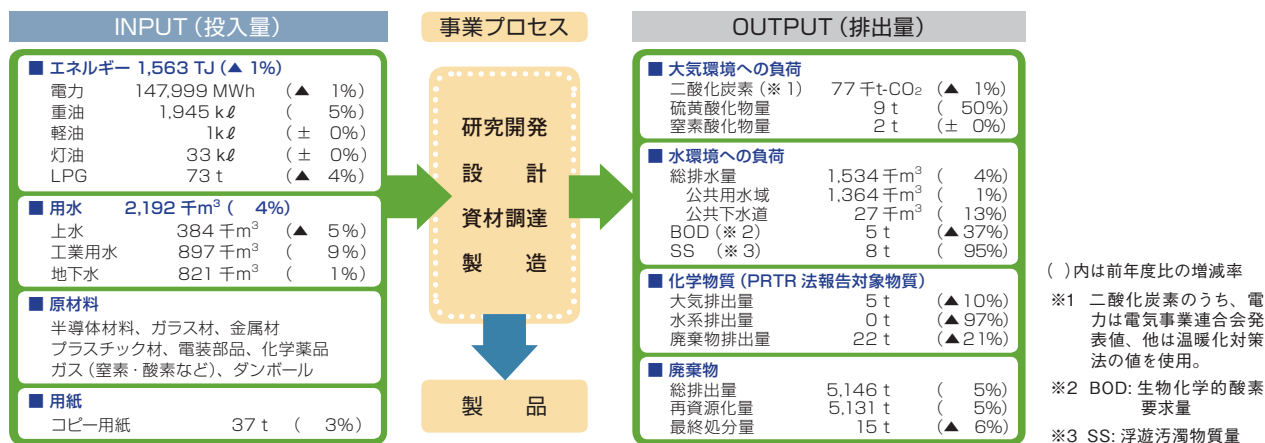
2014 年度	目標 (%)	実績 (%)	2015 年 目標 (%)
再資源化	99 以上	99.7	99 以上

■ 廃棄物発生の推移 (国内製造拠点 計)



事業活動と環境負荷

2014年度の国内製造拠点のエネルギー消費量、化学物質などの生産に伴う資源投入量と、二酸化炭素 (CO₂)、廃棄物などの排出量は下記の通りです。



山形サンケン株式会社

平成 26 年度 東北経済産業局長表彰 受賞 (2 月 18 日)

山形サンケン株式会社での環境に関する二つの取り組みが評価され、2015 年 2 月に「エネルギー管理優良工場」として東北経済産業局から局長表彰受賞しました。



前列左から 3 人目が山形サンケン八木社長

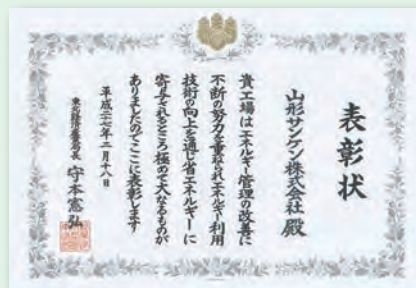
1. 超純水製造装置の逆浸透膜装置ポンプ更新による電力削減

■ 改善の背景および概要

純水製造装置の老朽化更新に伴い、当該システムの見直しを行いました。孔の大きさが概ね 2 ナノメートル以下で、水を通し不純物は透過しない性質を持つ逆浸透膜 (RO 膜 = Reverse Osmosis Membrane) の材質を変更することで、ろ過水の送水圧力の低圧化を可能としました。

これにより、高圧ポンプを低圧ポンプに替え、大幅なポンプ電力の削減を実現しました。(ポンプ容量: 60kw 減)

項目	更新前	更新後
RO 膜 材質 不純物除去率	酢酸セルロース 94%	ポリアミド系複合膜 99.7%
ポンプ 供給圧力	3.5Mpa	0.7Mpa
電力 稼働時	82kw	22kw



■ 省エネ効果

- ・削減電力量 526MWh/年 (削減率 約74%)
- ・投資回収期間 6.1 年
- ・付帯効果
 - ① 不純物除去率の向上
 - ② RO 膜交換費用の低減



2. LED 照明による電力量の削減

■ 改善の背景および概要

24 時間操業の工場棟、付属棟、厚生棟の蛍光灯照明 5,710 本を、高効率 LED 照明へ交換しました。自社施工にて工事費を削減し、電力使用量は年間約 13% 削減を実現しました。

■ 省エネ効果

- ・削減電力量 302MWh/年 (削減率 約13%)
- ・投資回収期間 9.3 年

GRI ガイドライン対照表

GRI はオランダに本部を置く NGO で、本ガイドラインの作成に当たる国連環境会議 (UNEP) の公認機関

項目	掲載関連ページ	備考
1 戦略および分析	3 , 4	WEB 公開
2 組織のプロフィール	30	WEB 公開
3 特定されたマテリアルな側面とバウンダリー	—	WEB 公開
4 ステークホルダー・エンゲージメント	1	WEB 公開
5 報告書のプロフィール	1	WEB 公開
6 ガバナンス	15 , 16	
7 倫理と誠実性	17 , 18	WEB 公開
8 マネジメント手法の開示項目の手引き	以下の指標	
経済	掲載関連ページ	備考
創出、分配した直接的経済価値	EC1 30	WEB 公開
気候変動によって組織の活動が受ける財務上の影響、その他のリスクと機会	EC2 —	
確定給付型年金制度の組織負担の範囲	EC3 —	
政府から受けた財務援助	EC4 —	※ 1
重要事業拠点における地域最低賃金に対する標準最低給与の比率 (男女別)	EC5 —	
重要事業拠点における、地域コミュニティ から採用した上級管理職の比率	EC6 19	
インフラ投資および支援サービスの展開と影響	EC7 —	
著しい間接的な経済影響 (影響の程度を含む)	EC8 —	
重要事業拠点における地元サプライヤーへの支出の比率	EC9 —	
環境	掲載関連ページ	備考
使用原材料の重量または量	EN1 27	
使用原材料におけるリサイクル材料の割合	EN2 27	
組織内のエネルギー消費量	EN3 27	
組織外のエネルギー消費量	EN4 27	
エネルギー原単位	EN5 27	
エネルギー消費の削減量	EN6 27	
製品およびサービスが必要とするエネルギーの削減量	EN7 27	
水源別の総取水量	EN8 —	
取水によって著しい影響を受ける水源	EN9 —	
リサイクルおよびリユースした水の総量と比率	EN10 —	
保護地域の内部や隣接地域または保護地域外の生物多様性価値の高い地域に所有、賃借、管理している事業サイト	EN11 —	WEB 公開
保護地域や保護地域外の生物多様性価値の高い地域において、活動、製品、サービスが生物多様性に対して及ぼす著しい影響の記述	EN12 —	
保護または復元されている生息地	EN13 —	WEB 公開
事業の影響を受ける地域に生息する IUCN レッドリストおよび国内保全種リスト対象の生物種の総数。これらを絶滅危険性のレベルで分類する	EN14 —	
直接的な温室効果ガス排出量 (スコープ 1)	EN15 27	
間接的な温室効果ガス排出量 (スコープ 2)	EN16 27	
その他の間接的な温室効果ガス排出量 (スコープ 3)	EN17 —	
温室効果ガス (GHG) 排出原単位	EN18 27	
温室効果ガス排出量の削減量	EN19 27	
オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	EN20 27	
NOx、SOx、およびその他の重大な大気排出	EN21 —	
水質および排出先ごとの総排水量	EN22 —	
種類別および処分方法別の廃棄物の総重量	EN23 27	
重大な漏出の総件数および漏出量	EN24 —	
バーセル条約 2 付属文書 I、II、III、VIII に定める有害廃棄物の輸送、輸入、輸出、処理重量、および国際輸送した廃棄物の比率	EN25 —	
組織の排水や流出液により著しい影響を受ける水域ならびに関連生息地の場所、規模、保護状況および生物多様性価値	EN26 —	
製品およびサービスによる環境影響緩和の程度	EN27 6, 7, 8	
使用済み製品や梱包材のリユース、リサイクル比率 (区分別)	EN28 —	
環境法規制の違反に関する高額罰金の額、罰金以外の制裁措置の件数	EN29 —	
製品の輸送、業務に使用するその他の物品や原材料の輸送、従業員の移動から生じる著しい環境影響	EN30 —	
環境保護目的の総支出と総投資 (種類別)	EN31 —	WEB 公開
環境クライテリアにより選定した新規サプライヤーの比率	EN32 —	
サプライチェーンにおける著しいマイナス環境影響 (現実的、潜在的なもの)、および行なった措置	EN33 —	
環境影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度を通じて申立、対応、解決を行ったものの件数	EN34 —	
社会 (公正な労働条件)	掲載関連ページ	備考
従業員の新規雇用者と離職者の総数と比率 (年齢、性別、地域による内訳)	LA1 —	
派遣社員とアルバイト 従業員には支給せず、正社員に支給する給付 (主要事業拠点ごと)	LA2 —	
出産・育児休暇後の復職率と定着率 (男女別)	LA3 —	
業務上の変更を実施する場合の最低通知期間 (労働協約で定めているか否かも含む)	LA4 —	※ 2
労働安全衛生プログラムについてモニタリング、助言を行う 労使合同安全衛生委員会に代表を送る母体となっている総労働力の比率	LA5 —	WEB 公開
傷害の種類と、傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤の比率および業務上の死亡者数 (地域別、男女別)	LA6 —	
業務関連の事故や疾病発症のリスクが高い労働者数	LA7 —	
労働組合との正式協定に定められている安全衛生関連のテーマ	LA8 22	
従業員一人あたりの年間平均研修時間 (男女別、従業員区分別)	LA9 —	
スキル・マネジメント や生涯学習のプログラムによる従業員の継続雇用と雇用終了計画の支援	LA10 22	
業績とキャリア開発についての定期的評価を受けている従業員の比率 (男女別、従業員区分別)	LA11 —	
ガバナンス組織の構成と従業員区分別の内訳 (性別、年齢、マイノリティ・グループその他の多様性指標別)	LA12 —	
女性の基本給と報酬総額の対男性比 (従業員区分別、主要事業拠点別)	LA13 —	
労働慣行クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	LA14 —	
サプライチェーンでの労働慣行に関する著しいマイナス影響 (現実のもの、潜在的なもの) と実施した措置	LA15 —	
労働慣行に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったものの件数	LA16 —	
社会 (人権)	掲載関連ページ	備考
重要な投資協定や契約で、人権条項を定めているもの、人権スクリーニングを受けたものの総数とその比率	HR1 —	
業務関連の人権側面についての方針、手順を内容とする従業員研修を行った総時間 (研修を受けた従業員の比率を含む)	HR2 —	
差別事例の総件数と実施した是正措置	HR3 —	
結社の自由や団体交渉の権利行使が、侵害されたり著しいリスクにさらされているかもしれないと特定された業務やサプライヤー、および当該権利を支援するために実施した対策	HR4 —	
児童労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、および児童労働の効果的な根絶のために実施した対策	HR5 —	

社会（人権）	掲載関連ページ	備考
強制労働事例に関して著しいリスクがあると特定された業務やサプライヤー、およびあらゆる形態の強制労働を撲滅するための対策	HR6	－
業務関連の人権方針や手順について研修を受けた保安要員の比率	HR7	－
先住民族の権利を侵害した事例の総件数と実施した措置	HR8	－
人権レビューや影響評価の対象とした業務の総数とその比率	HR9	－
人権クライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	HR10	－
サプライチェーンにおける人権への著しいマイナスの影響（現実のもの、潜在的なもの）および実施した措置	HR11	20
人権影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度により申立、対応、解決を図ったものの件数	HR12	－

社会（社会）	掲載関連ページ	備考
事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ 開発プログラムを実施したものの比率	S01	－
地域コミュニティに著しいマイナスの影響（現実のもの、潜在的なもの）を及ぼす事業	S02	－
腐敗に関するリスク評価を行っている事業の総数と比率、特定した著しいリスク	S03	－
腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	S04	16
確定した腐敗事例、および実施した措置	S05	－
政治献金の総額（国別、受領者・受益者別）	S06	－
反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により法的措置を受けた事例の総件数およびその結果	S07	－
法規制への違反に対する相当額以上の罰金金額および罰金以外の制裁措置の件数	S08	－ ※1
社会に及ぼす影響に関するクライテリアによりスクリーニングした新規サプライヤーの比率	S09	－
サプライチェーンで社会に及ぼす著しいマイナスの影響（現実のもの、潜在的なもの）および実施した措置	S010	20
社会に及ぼす影響に関する苦情で、正式な苦情処理制度に申立、対応、解決を図ったものの件数	S011	－

社会（製造責任）	掲載関連ページ	備考
主要な製品やサービスで、安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率	PR1	－
製品やサービスのライフサイクルにおいて発生した、安全衛生に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数（結果の種類別）	PR2	－ ※1
組織が製品およびサービスの情報とラベリングに関して手順を定めている場合、手順が適用される製品およびサービスに関する情報の種類と、このような情報要求事項の対象となる主要な製品およびサービスの比率	PR3	－
製品およびサービスの情報とラベリングに関する規制ならびに自主的規範の違反事例の総件数（結果の種類別）	PR4	－
顧客満足度調査の結果	PR5	19
販売禁止製品、係争中の製品の売上	PR6	－ ※1
マーケティング・コミュニケーション（広告、プロモーション、スポンサー活動を含む）に関する規制および自主的規範の違反事例の総件数（結果の種類別）	PR7	－
顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して実証された不服申立の総件数	PR8	－
製品およびサービスの提供、使用に関する法律や規制の違反に対する相当額以上の罰金金額	PR9	－ ※1

◇ ※1 当社業務に関連しない、または該当しない項目
◇ ※2 報告書には記載がないが、社内規則等にて別に定めのある項目

会社概要

商号

サンケン電気株式会社
Sanken Electric Co., Ltd.
〒 352-8666 埼玉県新座市北野三丁目 6 番 3 号

本社所在地

設立

1946 年（昭和 21 年）9 月 5 日

資本金

208 億円（2015 年 3 月 31 日現在）

決算期

3 月 31 日

営業・事業所

国内 10 ヶ所

連結子会社

石川サンケン株式会社
山形サンケン株式会社
鹿島サンケン株式会社
福島サンケン株式会社
サンケンオプトプロダクツ株式会社
サンケン ノースアメリカ インク
アレグロ マイクロシステムズ エルエルシー
ポーラー セミコンダクター エルエルシー
アレグロ マイクロシステムズ フィリピン インク
アレグロ マイクロシステムズ フィリピンリアルティ インク
アレグロ マイクロシステムズ ヨーロッパ リミテッド
アレグロ マイクロシステムズ アルゼンチン エスエー
アレグロ マイクロシステムズ ビジネス ディベロップメント インク
埃戈羅（上海）微電子商貿有限公司
アレグロ マイクロシステムズ タイランドカンパニー リミテッド
アレグロ マイクロシステムズ フランス エスエー
アレグロ マイクロシステムズ ジャー머니ー ジーエムビーエイチ

クリーバセンス テクノロジーズ エスエーエス
韓国サンケン株式会社
サンケン エレクトリック シンガポール プライベート リミテッド
サンケン エレクトリック ホンコン カンパニー リミテッド
ピーティー サンケン インドネシア
サンケン パワー システムズ（ユークー） リミテッド
大連三壘電気有限公司
大連三壘貿易有限公司
サンケン エレクトリック コリア株式会社
三壘電気（上海）有限公司
台湾三壘電気股份有限公司
サンケン エレクトリック（マレーシア）エスティーエヌビーエイチディー
サンケン電設株式会社
三壘力達電気（江陰）有限公司
サンケンロジスティクス株式会社
サンケンビジネスサービス株式会社



事業目的

半導体デバイス事業	パワー IC コントロール IC トランジスタ 整流ダイオード 発光ダイオード(LED) LED 照明
PM 事業	スイッチング電源 (SMPS) AC アダプター トランス
PS 事業	無停電電源装置 (UPS) 直流電源装置 インバータ 高光度航空障害灯 パワーコンディショナー 蓄電システム

単位：億円、人

主な業績推移（連結）

	2013 年 3 月期 (96期)	2014 年 3 月期 (97期)	2015 年 3 月期 (98期)
売上高	1,263	1,444	1,607
当期純利益	22	50	79
設備投資	77	104	150
研究開発費	120	145	166
従業員数	10,427	10,377	10,454



サンケン電気株式会社

〒352-8666 埼玉県新座市北野三丁目 6 番 3 号
TEL. 048-472-1111

問い合わせ先

